

## 2021年4月26日 聖書朝礼

「求めなさい、探しなさい、門をたたきなさい！だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。あなたがたのだれが、パンを欲しがる自分の子供に、石を与えるだろうか。このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない。」  
～ マタイにより福音7章7節～11節 ～

全校の皆さんお早うございます。週末はよく休みましたか。

先週は4つの都道府県に対し3回目の緊急事態宣言が出され、岐阜県も「まん延防止等重点措置」を国に要請し、23日、独自の非常事態宣言を出しました。いずれもゴールデンウィークの前後の人の流れを制し、特に変異株の感染拡大を防ぐためでしょう。せっかくのこのタイミングを逃さず、みんな協力して感染拡大防止に努めていきましょう。来週はゴールデンウィークもありますが、気を付けて過ごしていただきたいと思います。もし不安なことがあれば、何でもいいですので先生に相談してください。

さて、先週の朝日新聞に「患者を生きる」というコラムに、去年8月に行われた義足の女性によるファッションショーに初出演した18歳の海音さんの記事が載っていました。義足をハンディーとしてではなく、堂々とした自分として立っている様子は写真でありながら圧倒されてしまいました。しかし、そこまでの海音さんには色んな大変なことがありました。5歳からキッズモデルをしていた海音さんは、10歳頃はアイドルにデビューした明るくて元気な子でした。しかし、12歳の時、よく倒れるようになったり、鼻血が頻繁に出たり、関節が痛くなったりして、原因不明の病状が海音さんを襲い、1年近く入院をし、ようやく血管の難病である、病名も難しい「多発血管炎性肉芽腫症」だと診断され、その後、右足の指が壊死したため、脚は切断せざるをえなくなります。切断された痛みがひどすぎて、薬が効かず辛すぎてその時の記憶はほとんどないそうです。義足で歩けるようになった時には、歩けないと思っていた分喜びが大きかったそうです。海音さんは、キッズモデルをやっていたことで、人一倍“歩き方”が身体に染み付いていたおかげで、義足であることを全く感じさせない歩きを生み出したそうです。

「自分の脚で動けることが楽しい！」という思いとは裏腹に、義足であることは周囲に話せなかった海音さんは「切断ヴィーナス」という義足モデルのファッション写真集に出会い、「義足を出しても、かっこいいかもしれない」と思えるようになったそうです。「切断ヴィーナス」写真集の写真家と、義肢装具士が企画した「義足のファッションショー」のオーディションに参加し、見事に選抜され、東京パラリンピックの開会式だったはずの、2020年8月25日に開かれた「義足のファッションショー」で義足のモデルとしてデビューしました。海音さんは、「いろんな人に、『かっこいい！』と言ってもらえたことがすごくうれしかったです。“かわいそう”じゃなくて、“かっこいい”だったことが心に残っています。すごく吹っ切れました！」と話している海音さんの笑顔はこれからもきっとあるはずのたくさんの困難に堂々と向き合っていける力強さを私は感じました。

皆さんも自分の限界を決めつけず、たくさんの事にチャレンジしてみてください。コロナでどこへも行けなくなったと不自由になっている今を嘆くより今日の聖句にもあるように、自分を高める時間にしてはどうでしょうか。何かを探し求め、門をたたくために、まず何をすべきかを考える時間を持ちましょう。きっと神様が豊かに答えてくださるでしょう。今週のこの一週間の間、ゴールデンウィークの過ごし方を計画してみてください。

